

2019年10月18日
市光工業株式会社

市光工業、東京モーターショー2019に出展：
自動運転時代の新たなライティングソリューションを提示

大手自動車部品メーカーの市光工業株式会社（本社：神奈川県伊勢原市板戸 代表取締役会長：オードバディ・アリ、以下 市光工業）は、2019年10月24日（木）から11月4日（月）まで東京ビッグサイトにて開催される「東京モーターショー2019」において、自動運転時代の新たなニーズに応えるライティングを展示します。ブースは、西展示棟4階 W4106 です。

今回、市光工業はCGを駆使したHDライティングのヴァーチャルリアリティ（VR）を初めて披露します。「HDライティング」とは、高輝度の光源と電子デバイスによってピクセル単位で光をコントロールし、高精密なヘッドライトの光によってドライバーの運転をサポートする技術です。ロービーム領域では路面に線や記号、数字などを照射し、車幅を示すガイドラインやレストランなどへのナビ情報などをドライバーに知らせます。ハイビーム領域では照射パターンを高解像度化し、必要最小限に遮光することで、対向車、先行車への幻惑を防止しながらドライバーの視認性を同等に保ちます。近い将来登場する進化したヘッドランプによる運転支援をVRで体験していただきます。



あわせて、自動運転時代の新たなライティングソリューションとして、市光工業は車両がドライバーの代わりとなり光で意思を表現する「コミュニケーションライティング」の実物大モックアップを展示します。コミュニケーションライティングは自動運転社会での、ライティングの新たなHMI（Human Machine Interface）として、人間とクルマが情報をやり取りするための手段・装置としての光になります。LED約400個を使用したコミュニケーションライティングは、自動運転時にドライバーのアイコンタクトやジェスチャーに代わって車両の動き（意思）を周囲のドライバーや歩行者に、光のサインで伝えます。東京モーターショーのブースでは、対向車への「サンキュー」や、歩行者への「横断OK」など約10種類のシナリオを表示し、来場者にクルマの意思が伝わるかを検証します。



また今回の市光工業ブースでは、家族連れや学生などこれからの自動車産業を担う方々に向けて、ランプの仕組みを分かりやすく学べる、実物のヘッドランプとリアコンビネーションランプの分解モデルを展示します。



ヘッドランプ分解モデル



リアコンビネーションランプ分解モデル

(参考)

<市光工業とは>

市光工業株式会社は、1903年創業以来、自動車用ランプとミラーの純正部品専門メーカーとして、国内主要自動車メーカー及び、海外主要自動車メーカーに製品を納入してきました。

また、神奈川県厚木市に厚木製造所を建設し2019年7月に稼働をいたしました。今後5年をかけて伊勢原製造所の生産を移管し、新工場においては、リーン生産方式の採用や、ヴァレオ社の開発した生産技術コンセプトを採用し、生産の効率化を図ることで、ヘッドランプを中心とする事業の成長に繋がります。

<本件に関するお問い合わせ先>

市光工業株式会社
経営企画室 室長 高森

TEL : 0463-96-1442

URL : <http://www.ichikoh.com/>